

施策評価（令和6年度）

戦略2 農林水産戦略			
目指す姿2 林業・木材産業の成長産業化			
幹事部局名	農林水産部	担当課名	林業木材産業課
評価者	農林水産部長	評価確定日	令和6年7月31日

1 施策（目指す姿）のねらい（施策の目的）

“伐って・使って・植える”という森林資源の循環利用により、林業・木材産業の成長産業化と森林の多面的機能の持続的な発揮の両立を目指します。

2 施策の状況

2-1 成果指標の状況及び定量的評価

	施策の方向性、指標名(単位)	年度	2019 (R元)	2020 (R2)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	直近の 達成率	配点	備考
①	【施策の方向性①】 新規林業就業者数(人)	目標			134	134	134	134	111.2%	4	
		実績	146	122	135	149					
		出典:県調べ	達成率		100.7%	111.2%					
②	【施策の方向性②】 再造林面積(ha)	目標			556	604	675	750	101.0%	4	
		実績	338	332	561	610					
		出典:県調べ	達成率		100.9%	101.0%					
③	【施策の方向性③】 素材生産量(燃料用を含む)(千 m ³)	目標			1,710	1,750	1,870	1,900	82.5%	2	
		実績	1,583	1,425	1,571	1,443					
		出典:県調べ	達成率		91.9%	82.5%					
④	【施策の方向性③】 スギ製品の出荷量(千m ³)	目標			712	731	742	752	55.1%	0	
		実績	634	530	524	403					
		出典:県調べ	達成率		73.6%	55.1%					
⑤	【施策の方向性④】 森づくり活動等への参加者数 (人)	目標			24,000	24,000	24,000	24,000	108.1%	4	
		実績	23,362	12,758	21,552	25,940					
		出典:県調べ	達成率		89.8%	108.1%					

※ 指標の判定基準

4点: 達成率 $\geq$ 100% 3点: 100% $>$ 達成率 $\geq$ 90% 2点: 90% $>$ 達成率 $\geq$ 80%
 1点: 80% $>$ 達成率 $\geq$ 70% 0点: 70% $>$ 達成率 n: 実績値が未判明

定量的評価結果	計算式
2.80 (c相当)	$ \begin{array}{l} 4 \text{ 点} \times 3 \text{ 個} = 12 \text{ 点} \qquad 1 \text{ 点} \times 0 \text{ 個} = 0 \text{ 点} \\ 3 \text{ 点} \times 0 \text{ 個} = 0 \text{ 点} \qquad 0 \text{ 点} \times 1 \text{ 個} = 0 \text{ 点} \\ 2 \text{ 点} \times 1 \text{ 個} = 2 \text{ 点} \\ \hline \text{合計} \quad 14 \text{ 点} \div 5 \text{ 個 (判明済み指標)} = 2.80 \end{array} $

※ 成果指標において実績値が未判明となった指標がある場合には、それを除いて平均点を算出する。

※ 定量的評価の判定基準

a相当: 平均点が3.6点以上 b相当: 平均点が3.2点以上3.6点未満 c相当: 平均点が2.8点以上3.2点未満
 d相当: 平均点が2.4点以上2.8点未満 e相当: 平均点が2.4点未満

2-3 主な取組状況とその成果

【施策の方向性① 次代を担う人材の確保・育成】

- ・秋田林業大学校における人材育成のほか、就業希望者や高校生に対する林業体験研修の実施等により、新規就業者数は149人に増加しており、全国的に見ても高い数値で推移している。
- ・林業経営体と県で構成する秋田林業女性会議を設置して、女性や若者の就業促進対策について議論を重ね、多様な担い手確保に向けて働きやすい就労環境の整備を進めるよう、林業関係団体に対して提案活動を実施した。

【施策の方向性② 再造林の促進】

- ・「あきた造林マイスター」を新たに20名認定・育成（累計85名）して森林所有者に再造林を働きかけるとともに、県及び業界団体による造林地集積への独自支援により、再造林面積は561ha（令和4年度）から610ha（令和5年度）へと9%増加している。

【施策の方向性③ 木材の生産・流通体制の整備と利用の促進】

- ・林業関係団体や木材加工企業等で構成する秋田県原木需給会議を設置して、木材の需給情報を共有するとともに、路網整備と高性能林業機械の導入や木材加工流通施設の整備への支援により、原木や木材製品の供給力の向上を図ったものの、令和5年度は木材需要が低迷し素材生産量は8%減少した。
- ・SNSや木材製品の首都圏展示会、モデルハウス等の場を活用して県産材の情報発信を行うとともに、県内工務店17グループや県外あきた材パートナー18社と製材工場等とのマッチングを支援したほか、住宅以外の建築物の木造・木質化に取り組む建築人材の育成等により、県産材の利用を促進したものの、令和5年度は木材需要が低迷し、スギ製品出荷量は23%減少した。

【施策の方向性④ 森林の有する多面的機能の発揮の促進】

- ・森林所有者に加えてボランティアなど62団体が森林整備活動を行ったほか、市町村や森林組合等が森林病害虫による被害防止対策や景観保全に向けた里山林整備を実施し、森林の多面的機能強化を図った。

3 総合評価と評価理由

総合評価	評価理由
C	成果指標の達成率を基にした定量的評価は2.80で「c相当」であることから、総合評価は「c」とする。
	【定性的評価として考慮した点】 ・

4 県民意識調査の結果

質問文		「伐って・使って・植える」という森林資源の循環利用が進み、林業・木材産業が発展している。				
調査年度		2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	前年度比
満足度						
満足度	肯定的意見	15.8%	13.6%			△2.2
	十分 (5点)	1.4%	1.6%			+0.2
	おおむね十分 (4点)	14.4%	12.0%			△2.4
	ふつう (3点)	42.7%	35.3%			△7.4
	否定的意見	22.6%	30.2%			+7.6
	やや不十分 (2点)	14.1%	18.2%			+4.1
	不十分 (1点)	8.5%	12.0%			+3.5
	わからない・無回答	18.8%	20.7%			+1.9
	平均点	2.83	2.66			△0.17

※端数処理の関係で満足度の割合の合計は100%にならないものもある。

5 主な課題と今後の対応方針

施策の方向性	課題	今後の対応方針
①	○ 林業就業者に占める60歳以上の割合が4割を超えており、林業経営体は、素材生産や再造林等の事業量を増やしながら経営拡大していく中で、林業就業者を安定的に確保できるか不安を感じている。	○ 就業希望者に対する就業相談や林業経営体とのマッチング、林業研修会の開催等を行うほか、学生向けの見学会を開催し、林業のイメージアップに努める。また、提案事項の早期実現に向けて、林業女性会議による意見交換を継続するとともに、業界団体が行う就労環境整備の活動をサポートする。
②	○ 再造林面積は増加しているものの、経済的負担や管理への不安を感じている所有者が多く、現場作業の省力化や低コスト技術の定着が不十分である。	○ 引き続き、造林マイスターを育成し、造林地集積の取組を強化するとともに、初期成長に優れ花粉の少ないエリートツリーの増産やスマート林業技術等の研修会を実施し、普及に努める。また、森林由来クレジットの販売収益による、再造林等森林整備を促進するため、J-クレジット制度の普及に努める。
③	○ 国内の木材市況は、物価高等の影響を受けて新設住宅着工数が伸び悩むなど、低調な状況が続いており、生産活動の先行きが不透明である。	○ 柱材等構造材への利用促進や関西・北陸方面へのパートナー開拓を進めるとともに、県産材利用量に応じたCO ₂ 固定量の認証を行うなど、新たな需要を開拓する。
④	○ ボランティア会員の高齢化が顕著である。	○ あきた森づくり活動サポートセンター等と連携しながら、森林ボランティア研修会を開催し、人材育成に努める。

6 政策評価委員会の意見

自己評価「c」をもって妥当とする。